

ウイルス学会関連研究集会紹介

2. 第11回みちのくウイルス塾報告 (7月14・15日)

西村 秀一

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
臨床研究部ウイルスセンター

この7月14, 15日, 毎年この時期恒例の, 夏の学校『みちのくウイルス塾』が当院大会議室を会場に開かれました。日本ウイルス学会教育研究支援委員会と当院の地域連携室の共催のこの会も, 最初から数えて11回目です。

今年は, いつもより広範な分野でのお話を聞こうと, 小学校単位でのインフルエンザの流行についての詳細な解析にはじまり, ウイルスのたんぱく質の持つ物理的な性質とそれらの機械的な見事な動きの話から, これまでのリクエストで結構多くの人たちの聴講希望がありながら実現していなかった肝炎ウイルスの話, そしてまた, ヒトに役立つウイルスという新しい視点で, 動物の進化に働いたレトロウイルスの話やウイルスで植物を病原微生物から守る話やウイルスを遺伝子の運び屋として使ったの遺伝子治療の試みの話などもあり, じつに興味深い内容盛りだくさんでした。

初日の講師と演題は以下の通りです。(敬称略)

1. 「地域末端でインフルエンザはどのように流行するか」
…地域に根を張った疫学の話
群馬大学大学院医学研究科 清水宣明
2. 「古代ウイルス学への招待」
…進化ウイルス学: 動物の進化とウイルスの関係についての話
京都大学ウイルス研究所 宮沢孝幸
3. 「酸性環境とインフルエンザウイルスの増殖」
…基礎知識の確認
仙台医療センター 西村秀一

連絡先

〒983-8520

宮城県仙台市宮城野区宮城野 2-8-8

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
臨床研究部ウイルスセンター

TEL & FAX : 022-293-1173

E-mail: vrs.center@snh.go.jp

4. 「インフルエンザウイルスが細胞に進入する際の“鍵”の仕組み」

…イオンチャンネルの話

東北大学大学院薬学研究科 竹内秀夫

これらが終わったあとは, 場所を地域研修棟4階フロアに場所を移して, 意見交換会が開かれ, ピザやお寿司をつまみながら, 参加者と講師の先生方が親しく語り合いました。仙台の外からの参加者の中には, 同フロアに併設されている宿泊施設に泊まっている人たちもいて, その後街に繰り出す人, その場で語り合う人たちと, 思い思いの仙台の夜を過ごしたようです。

翌日も, 朝9時からつぎの3つの講義がありました。

1. 「ウイルスいろいろ: 目立たないウイルス, 植物の守り神になるウイルス」
…ウイルスを使って植物を病気から守る試みの話
岡山大学資源植物科学研究所 鈴木信弘
2. 「アデノ随伴ベクターの基礎から応用まで」
…ウイルスを使って病気を治す遺伝子治療の話
自治医科大学分子病態治療研究センター 水上浩明
3. 「ウイルス性肝炎の現状」
…ウイルス性肝炎のABC
浜松医科大学医学部 鈴木哲朗

そのあと恒例の, 知識の確認と娯楽を兼ねた, 獨協医大増田先生の出題による双方向無線「おさらいクイズ」にうつり, 盛り上がりました。元大学教授や現役の大学院生を押しつけ, 当院の看護学校の3年生の横田さんがなんと得点の2位に食い込んで, 喝采を浴びました。

この会は, 「みちのく」という名を冠しておりますが, 遠方からの聴講者も歓迎しております。皆様, ぜひふるってご参加ください。来年も, 聞き逃せない講演を準備しております。



第1日目終了後の集合写真、講師の面々と、熱心に講義を聴き質問に立つ聴講者たち

なお、本塾についての情報、実際の会のようす、そして講師提供による講師が講演で使用したスライドや講師の話聴講者が解説した聴講録を、当ウイルスセンター・ホームページのサイトに掲載しております。ぜひいちどご覧ください。
(<http://www.snh.go.jp/Subject/26/juku/index.html>)

最後に、毎回、演者の選択には大きな努力を注いでおります。今年も、みんなに聞かせる面白い話はないかと、ウイルス学会の会場を右往左往する筆者です。自薦他薦、かまいませんのでぜひお声掛けください。

----- みちのくウイルス塾について -----

当塾は平成13年に始まった日本ウイルス学会教育研究支援委員会と当院の地域連携室の共催の講演会です。前者からはボランティアの講師とその旅費の提供、後者からは場所と宿泊施設の無償提供と意見交換会の資金援助をいただいています。

近寄り難いと思われがちなウイルス学への理解者を増やし、あわよくば将来ウイルス分野に進む若者が出てくれることを願って始めた会で、基本的に海の日を含む7月の3連休の最初の2日間に行い、土曜昼スタート、日曜昼終了というかたちで行われています。毎回だいたい6人から7人の講師が講義をしますが、講師陣には、自分の得意な分野について、「素人にもわかる、わかりやすい話をする事」が求められています。

講師は、筆者の個人的な声かけで、ベテランから若手まで、ウイルス学各分野で活躍する研究者に全国からボランティアでお越しいただいております。中には、かつて聴く立場で参加していた学生が講師になる人たちもいて、今後そういった人たちが増えてくれることを願っています。また、当代きっての研究者にならんで、将来が嘱望される大学院生にも、一般の人たちに対して自分の研究をわかりやすく伝える勉強という意味で、発表の場を与えています。また、ウェブサイトに掲載する聴講録書きも、他のひとにわかりやすく解説する勉強として、書き直しを命じられ、それを経ての掲載ということもしばしばです。